

## Voice どの子ども意欲的になる

ICTを使う授業の支援に入っていますが、どの子ども意欲的に取り組んでいます。手を挙げにくい児童がICTを使って発言できるようになった例もありました。今後は、教材にも動画やデジタル教科書が加わり、子どもたちにとってより理解しやすい授業になっていくと思います。



ICT 支援員  
遠鉄システムサービス㈱  
鈴木由利子さん

## Voice 説明しやすくなった

算数の授業の時、タブレットで自分のノートの写真を撮り、それを電子黒板に写して説明をしました。説明しやすかったし、みんなの意見もよく分かりました。他に修学旅行のプランもインターネットで調べました。メディアに触れることが増えパソコンやタブレットが身近になった気がします。



御前崎小学校6年  
益田 倅羽さん

## Voice 意欲や関心、習熟度が高まる

私の授業では、理科や社会での調べ学習、国語でワードやパワーポイントを使った発表、算数はノートをタブレットで撮って大型テレビで発表するという活用をしています。ICTを使うと子どもたちの授業に対する意欲や関心が本当に高まり、学習に対する習熟度も深まっていると感じます。説明するのに黒板に書く時間も省略できるので、時間の削減にもなっています。課題も多いですが、今後も有効に活用していきたいと思っています。

御前崎小学校6年2組 担任  
伊久美大輔 教諭  
Daisuke Ikumi



パソコンでインターネットなどを使い

### ICTで深まる学び 利点はトリプルA

現在、市内の小中学校には、3人に1人の割合でタブレット端末が配備されており、来年4月には1人につき1台端末が用意される予定となっている。子どもたちの学習は今後どう変化していくのか。

総務省によると、ICTを教

育に取り入れるメリットは「トリプルA」にあるという。

【Active(アクティブ)】

▼いつでもどこでもつながる情報端末を持つことで、興味関心のあることをその場で調べて記録したり、共有したりすることが容易になる。自分と他人の意見を画面上で比較対照しながら分析を深めたり、自分の考えを表現力豊かにプレゼンテーションしたりすることができる。

【Adaptive(アダプティブ)】

▼AI技術で個人の習熟度が見える化され、それに合った課題が出題されるなど、最適な学びを得られる。教職員や保護者にとっては、学習記録データも見える化されるので、細かな指導につなげていくことができる。

【Assistive(アシストイブ)】

▼ICTを導入すれば、世界中の人とインターネットを通じて

つながることができる。自分が実際に経験できない情報も取り入れることができるので、学びの選択肢が広がる。教職員の業務効率化にもつながる。

既に市内の小中学校では、タブレット端末やパソコンを使った授業が始まっている。御前崎小学校6年の千代叶人さんは、「家で勉強や動画を見るときに使っているパソコンやタブレットを使った授業はとても楽しいです。インターネットを使って自分で作業をすることが多いし、初めてのことも多いので、普段の授業よりも分かりやすく感じます」と笑顔で話す。

生まれたときからメディアが身近にある子どもたちにとって、ICTを使った授業は、新鮮であり楽しく理解を深められる時間になっている。今後、一人一台端末が配備されれば、その機会も増えていくこととなる。

